

令和2年

全国

一級河川の水質現況

Recent conditions of water quality of class A rivers in Japan

2020

令和2年水質調査結果 水質事故等の状況

特集

猪名川 い～な

— 猪名川を知り、学ぶ活動を通じて、
「行政と住民が一体となった水質浄化」を実現 —

「日本の清流」

タカツガワ

高津川 [中国地方]

「清流」から生まれた名産品

ヨシノガワ

吉野川 [四国地方]

「水質だより」

アカガワ

赤川 [東北地方]



CONTENTS



科学的調査

- 令和2年水質調査結果**
- 03 DATA 水質が最も良好な河川 2020
 - 04 DATA 水質が最も良好な河川 2011-2020
 - 05 DATA 過去10年間の水質改善状況
 - 06 DATA 環境基準（BOD等）の満足状況



水質事故調査

- 水質事故等の状況**
- 07 DATA 水質事故等の状況



- 09 **猪名川 い～な**
- 猪名川を知り、学ぶ活動を通じて、
「行政と住民が一体となった水質浄化」を実現 —



- 11 「日本の清流」  [中国地方] **高津川** タカツガワ

- 12 「清流から生まれた名産品」  [四国地方] **吉野川** ヨシノガワ

- 13 「水質だより」  [東北地方] **赤川** アカガワ



- 14 水難事故防止 **ライオンケオン!**



科学的調査

令和2年水質調査結果

公害問題が顕在化してきた昭和40年代以降、水質汚濁が進み、「汚い、臭い、遊べない」といわれる河川が全国に多くありました。国土交通省が河川の水質について、年単位(1月～12月)でのとりまとめを始めた昭和46年当時、BOD平均値が5.0mg/ℓを超え、水質改善が急務であった地点は、一級河川の全調査地点の27%を占めていました。

しかし、このような一級河川の水質も、これまでの排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により徐々に良くなっています。例えば、昭和40年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚れた河川でした。昭和50年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が良くなり、近年では、大量のアユが毎年遡上するまでになっています。また、綾瀬川や大和川は、昭和40年代の都市化の進展に伴う水質汚濁が著しく、BOD値が30mg/ℓを超えていましたが、水質改善の取組みにより確実に良くなりました。特に大和川では、令和2年の代表地点のBOD75%値が1.7mg/ℓとなり、アユの遡上も確認されるようになっています。

こうした水質改善の背景には、排水規制や下水道整備のみならず、各地域や家庭での生活排水の汚れを減らす取組みや、流域でのクリーン活動等の啓発活動といった、流域の人々の様々な活動があります。これからも水質を維持・改善していくためには、このような各地域における努力を持続・発展させることが重要です。



科学的調査

THE BEST 18 河川

水質が最も良好な河川 2020

令和 2 年の平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川は以下のとおりです。

BOD 値による河川の水質状況（水質が最も良好な河川）

地方名	河川名			調査地点の都道府県名
北海道	後志利別川	シリベシトシベツガワ	後志利別川水系	北海道
北海道	尻別川	シリベツガワ	尻別川水系	北海道
北海道	沙流川	サルガワ	沙流川水系	北海道
東北	荒川	アラカワ	阿武隈川水系	福島県
北陸	黒部川	クロベガワ	黒部川水系	富山県
北陸	常願寺川	ジョウガンジガワ	常願寺川水系	富山県
北陸	庄川	ショウガワ	庄川水系	富山県
中部	宮川	ミヤガワ	宮川水系	三重県
中部	安倍川	アベカワ	安倍川水系	静岡県
中部	NEW 狩野川	カノガワ	狩野川水系	静岡県
近畿	熊野川	クマノガワ	新宮川水系	和歌山県
中国	天神川	テンジンガワ	天神川水系	鳥取県
中国	小鴨川	オガモガワ	天神川水系	鳥取県
四国	四万十川	シマントガワ	渡川水系	高知県
四国	仁淀川	ニヨドガワ	仁淀川水系	高知県
九州	川辺川	カワベガワ	球磨川水系	熊本県
九州	小丸川	オマルガワ	小丸川水系	宮崎県
九州	五ヶ瀬川	ゴカセガワ	五ヶ瀬川水系	宮崎県

NEW：過去 10 年ではじめて「水質が最も良好な河川」となった河川

【「水質が最も良好な河川」の定義】

対象河川である 160 河川のうち、以下の両方を満たす河川。

- 対象河川の各調査地点の BOD 年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が $0.5\text{mg}/\ell$ ※1
- 対象河川の各調査地点の BOD75% 値 ※2 について、全調査地点で平均をとった値が $0.5\text{mg}/\ell$

※1：環境省の定める BOD（生物化学的酸素要求量）の報告下限値（ $0.5\text{mg}/\ell$ ）

※2：測定データを値が小さい（水質が良好）方から並べ、 $0.75 \times$ データ数番目（整数ではない場合は切り上げ）の値（例えば、BOD を毎月 1 回測定していた場合、水質の良い方（値の小さい方）から数えて $0.75 \times 12 = 9$ 番目の値が 75% 値となります。）

<対象河川>

- 一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川
- 一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川

※湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。



科学的調査

水質が最も良好な河川 2011 - 2020

星印：「水質が最も良好な河川」となった年
(西暦下2桁)

平成 23- 令和 2 年水質調査結果



2011-2020 年（平成 23- 令和 2 年）の 10 年で、
4 回以上「水質が最も良好な河川」となった河川（18 河川）を紹介します





科学的調査

TOP
5

過去 10 年間の水質改善状況

過去 10 年間に BOD 値が大幅に改善されている地点は以下のとおりです。

BOD 平均値の改善幅による過去 10 年間の水質改善状況

順位	地方名／地点名 (水系名河川名)	平成 22 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	令和 2 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	水質改善幅 (mg/ℓ)
1	近畿 ^{トクラ} ／利倉 (淀川水系猪名川) 	8.1	3.0	5.1
2	中国 ^{ナカス} ／中須 (芦田川水系砂川)	4.1	1.4	2.7
3	関東 ^{ウンガ} ／運河 ^{ゴウリュウマエ} (合流前) (利根川水系利根運河)	6.9	4.3	2.6
4	近畿 ^{ナカノバン} ／中野橋 (淀川水系山科川)	4.5	2.3	2.2
4	中部 ^{ショウナイシンカワバン} ／庄内新川橋 (庄内川水系庄内川)	3.8	1.6	2.2

令和 2 年の地点毎の年間の平均的な水質 (BOD 値) と、平成 22 年の地点毎の年間の平均的な水質 (BOD 値) から、10 年間の直轄管理区間の水質改善幅による地点の水質改善状況を比較すると、上記上位 5 地点で大幅な水質改善が進んでいます。

また、上記上位 5 地点以外にも、様々な取組み等により、全国的にきれいな川、生物が生息しやすい川などをめざして水質や水環境の改善が多面的に取り組まれています。

こうした水質を改善する取組みを地域づくりや観光振興とあわせて実施している河川として、猪名川(近畿地方)(P.9)や赤川(東北地方)(P.13)の事例を掲載しています。



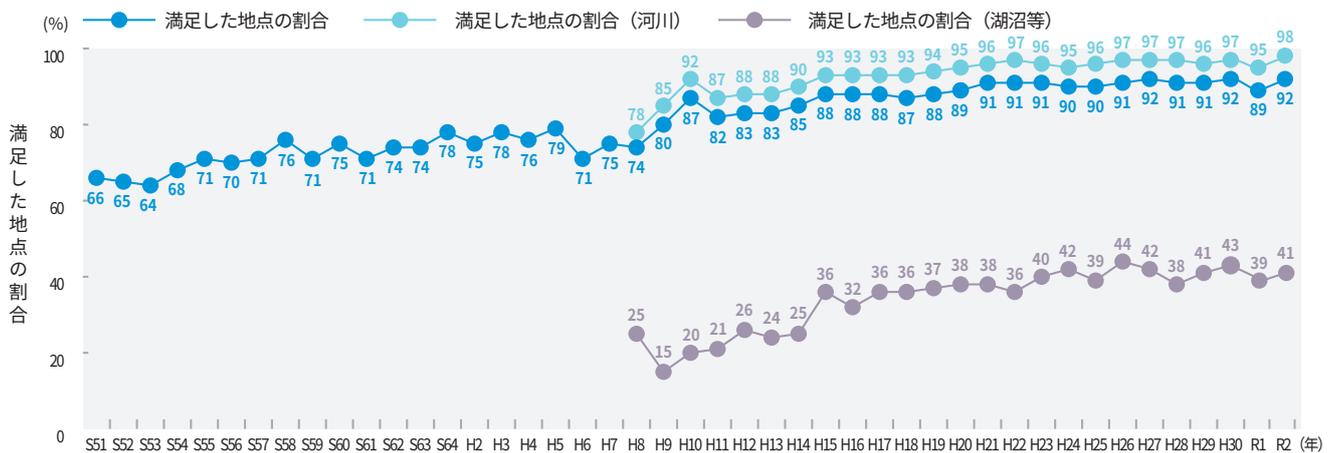
科学的調査

92%

環境基準（BOD等）の満足状況

BOD※1（またはCOD※2）値が環境基準を満足した地点の割合は92%でした。

【生活環境の保全に関する環境基準】



一級河川（湖沼及び海域を含む）において環境基準を満足した地点の割合

令和2年に、一級河川（湖沼及び海域を含む。）の直轄管理区間において、生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD（生物化学的酸素要求量）または、COD（化学的酸素要求量）の環境基準を満足した地点の割合は92%（909地点/988地点）で、依然として高い割合を維持しています。

なお、令和2年にBOD（またはCOD）値が環境基準を満足した地点の割合について、地点の種類別に見ると、河川のみでは98%（868地点/888地点）、湖沼等（海域含む）※3では41%（41地点/100地点）でした。

※1 BOD（生物化学的酸素要求量）： 河川の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の汚れ（有機物）が微生物により分解されるときに消費される酸素量のこと、BODの値が大きければ水が汚れていることを表す。

※2 COD（化学的酸素要求量）： 湖沼や海域の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の有機物を酸化剤で酸化されるときに消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、CODの値が大きければ水が汚れていることを表す。

※3 河川・湖沼別の環境基準を満足した地点の割合は平成8年より整理（平成26年以降は海域も含む）

【ダイオキシン類】

令和2年度における、ダイオキシン類が水質環境基準を満足した地点の割合は97%（207地点/214地点）でした。

【人の健康の保護に関する環境基準】

令和2年における、直轄管理区間の健康項目全体の環境基準を満足した割合は99%（前年99%）となっており、ほとんどの地点で環境基準を満足しました。

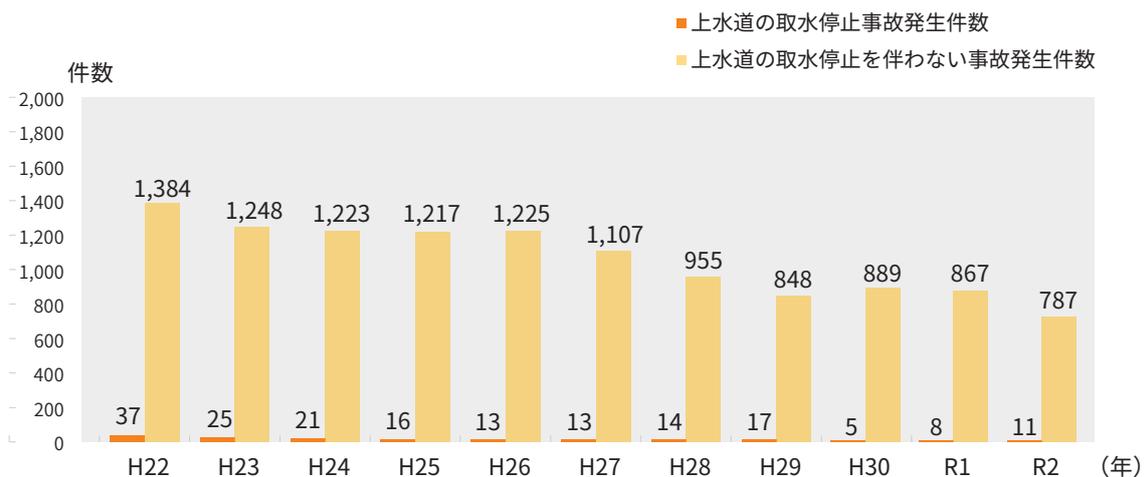
水質事故等の状況

令和2年の水質事故の発生件数は798件で、長期的には減少傾向にあります。

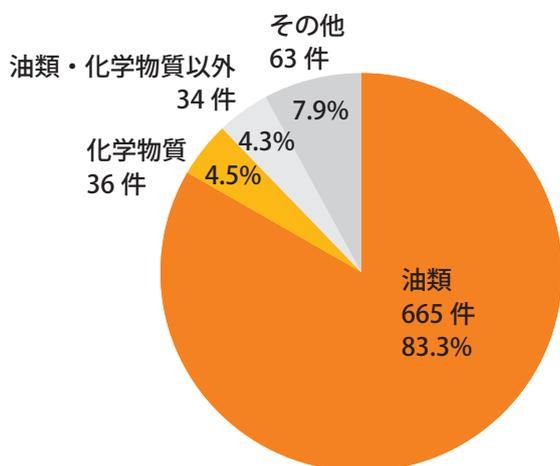
令和2年は令和元年と比べ77件減少し、水質事故の発生件数は、減少傾向にあります。

事故の内容を原因物質別にみると、油類の流出が全体の約8割を占めています。

一級水系においては、水質事故発生時には、河川管理者、利水者、その他関係行政機関等により構成される「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて、速やかに情報の収集、通報・連絡を行うとともに、関係機関と連携して速やかにオイルフェンスを設置するなどの対策により、被害の拡大防止に努めています。



水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移



合計 798件（自然現象15件を除く）

水質事故の内容（原因物質別）



不法投棄による油流出事故

（写真：関東地方整備局 江戸川河川事務所）

水質事故を防ぐために

水質事故の多くは油類や化学物質によるものであり、工場や農家などで使用される機械の故障・操作ミスや、交通事故、ごみの不法投棄などによって発生します。

ひとたび油類や化学物質が河川へ流出してしまうと、魚などの水生生物に影響を与えるだけでなく、規模によっては河川からの水道用水等の取水が制限されるなど、広範囲にわたって市民生活に重大な影響を及ぼすおそれがあります。

そのため水質事故発生時には、「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて速やかに通報・連絡・情報収集を行うとともに被害の拡大を防止できるよう、日頃より関係機関と共同で訓練等を実施しています。

事例

北海道開発局での事例

北海道一級河川環境保全連絡協議会 網走地方部会は、国・道・市町・警察で構成され、網走川、常呂川、湧別川及び、渚滑川並びにこれらに接続する公共用水域等の環境保全対策に関する連絡調整を行っています。

部会では、河川に油類が流出するなどの水質事故が発生した際の対策技術の向上を目的に、実際の水質事故発生を想定した現地対策訓練を実施しており、令和2年には、湧別川で油流出事故発生時の現地対策訓練（オイルフェンス設置）、油分等の簡易水質調査の実演などが行われています。



油分等の簡易水質調査の実演

※令和2年度の実施状況（湧別川水系湧別川）

（写真：北海道開発局 網走開発建設部）

北陸地方整備局での事例

関川・姫川水系水質汚濁連絡協議会では、関係機関合同で水質事故対応実技訓練と情報伝達訓練を毎年秋に実施し、水質事故に備えています。

これは、灯油等の取扱いミスなどを原因とした油流出事故が、暖房が必要となる冬期に多発するため、本格的な冬期間を迎えるにあたって実施しており、令和2年には、関川・姫川流域の関係機関（15団体）が参加し、油処理に関する講習やオイルフェンス等設置の実技訓練を合同で実施しています。



水質事故対応訓練の状況

堤外水路から関川へ油流出防止するため、オイルフェンスを設置。流れに対して45度に張り、油を片岸に寄せる
（写真：北陸地方整備局 高田河川国道事務所）

猪名川 い～な

特集

— 猪名川を知り、学ぶ活動を通じて、
「行政と住民が一体となった水質浄化」を実現 —

【淀川水系猪名川（兵庫県）】

かつて汚れた川として注目された猪名川では、水質をよくするために、住民の猪名川への関わりを深める活動が長年続けられてきました。その結果、下水道整備の進展などもあり、大幅な水質改善を実現しています。

写真：五月平展望台から見た猪名川



典型的な都市河川

猪名川は、兵庫県川辺郡猪名川町にある大野山を水源地とし、大阪府・兵庫県・京都府の11の市と町を流れながら神崎川に合流する河川です。

上流部には、自然林が残っていますが、中流から下流にかけての流域には、住宅や工場が建ち並び、東西の拠点をつなぐ交通機関も集中するなど、流域内の資産密度・人口密度が著しく高い典型的な都市河川です。

かつては水質ワーストの常連

約10年前の猪名川の水質は、全国一級河川水質調査において、ワースト5の常連でした。

当時の住民アンケートでも猪名川への関心は高いものの水質がよくないと感じている人の多い傾向がありました。また、水質調査や清掃活動への参加も少なく、広報活動や啓発活動が行き届いていない実態が明らかとなりました。

水質をよくするためには、住民の猪名川への関わりを深め、行政と住民が一体となって水質浄化に取り組む重要性が浮き彫りになりました。

猪名川を知り、学ぶ活動を展開

猪名川の水質改善に向けて、猪名川を知り、学ぶ様々な取り組みが、住民や市民団体の協力のもと進められました。猪名川水環境交流会『いながわ体験フェスタ』はその一つです。交流会自体は以前からシンポジウム形式で開催されていましたが、子供から大人まで楽しめるよう体験ブース、子供たちの発表、環境パネル展示を軸にしたイベントにリニューアルし、多くの参加者から好評を得て、猪名川の水環境改善への啓発に役立っています。

また、猪名川の広報・啓発に重要な役割を担っているのが「猪名川河川レンジャー」です。

猪名川の魅力を発見してもらう取組みとして写真・絵画コンクールを平成24年から主催するほか、環境や防災の出前講座を幅広く実施しています。市民団体などが主催する「水辺まつり」や「猪名川クリーン作戦」にも発足時から参加を続けるほか、猪名川流域で活躍する団体をリレー形式で紹介するなど、市民団体の交流促進・支援にも長年取り組んでいます。



いながわ体験フェスタ
～猪名川水環境交流会 2019～



猪名川の石を使ったストーンアート
体験の様子
(いながわ体験フェスタより)



防災の出張講座

猪名川河川レンジャー

『猪名川河川レンジャー』は、地域と連携した河川整備を進める上で、住民に関心を持ってもらい、住民参加型の河川整備の推進を支援する立場で、住民と行政との関係をコーディネートし、人と川をつなぐ役割を担っています。



佐藤レンジャー

環境保全担当のレンジャーである佐藤さんは、猪名川で陸生のホタル・ヒメボタルを見て以来、猪名川の魅力にひかれ、長年猪名川の環境保全活動に携わってきました。

身近な猪名川の楽しさを紹介していきたいとレンジャーを引き受け、出前講座の講師など積極的に活動されています。

防災や歴史文化担当のレンジャーもあり、令和2年はレンジャー3名と協力員4名の体制で活動しています。



猪名川の写真・絵画コンクール『猪名川のい〜な！作品展』
(下：表彰式の様子)



小学校の水質出前講座の様子

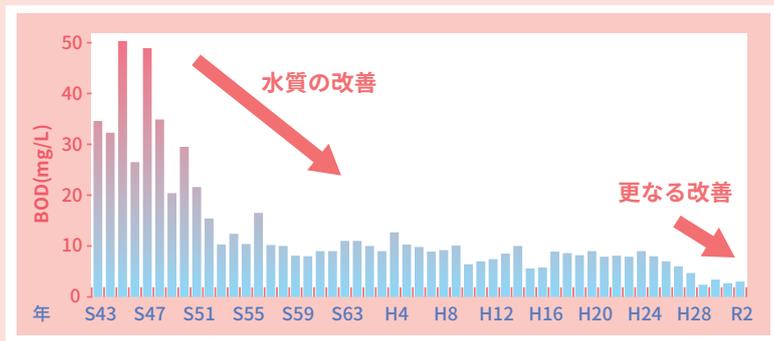
5年生を対象に、佐藤レンジャー達による猪名川の水質に関する講座と調査体験が行われました。

パケットテストを用いた水質調査では、川の水にジュースをわずかに混ぜてパケットテストを行い、少しの汚れでも魚が生きられない水質になってしまうことを学んでもらいました。

全国1位の水質改善を実現

このような取り組みの活発化とともに、猪名川の水質改善も進みました。長年にわたって水質の悪い状態が続いていた利倉地点も、直上流にある下水処理場の高度処理導入を契機に、平成25年から減少に転じました。

この結果、平成22年にBOD年平均值で8.1mg/Lだったものが、令和2年に3.0mg/Lまで改善しています。これは、10年間の水質改善幅としては全国1位です。



利倉地点のBOD経年変化
(年平均值、出典:水文水質データベース)



高校生との外来植物（キクイモ） 駆除活動後の集合写真

次世代の若者たちと一緒に川づくりも始まっています。

地域により親しまれる川へ

水質改善とともに猪名川への親しみも増し、猪名川の自然や歴史文化、水辺の魅力について注目が集まっています。

今後も、猪名川の良さを多くの人が共有でき、多くの人が川の活動に携わることで、川と人のつながりや地域と人のつながりを強めていこう、取り組みが続けられています。



「日本の清流」

[中国地方]

タカツガワ

高津川

高津川水系

写真提供:石見観光振興協議会事務局

清流 高津川

清流が育む地域を守り伝える

天然アユを育む高津川

高津川は島根県西部に位置し、吉賀町を水源とし、津和野町、益田市を經由して日本海へと注がれる幹川流路延長81km、流域面積 1,090km² の一級河川です。

全国で最も水質が良好な河川に何度も選ばれている日本有数の清流であり、その流れは多くの生き物を育てています。中でもアユは高津川を代表する魚であり、シーズンには多くの釣り客で賑わいます。高津川で獲れたアユは臭みがなく良質で、背ごし（刺身）、塩焼き、内臓を塩漬けた「うるか」など様々な楽しめます。

高津川と共に暮らす

古くから地域の人々は水と深い関りをもって暮らしてきました。源流である大蛇ヶ池では、1年間の豊作を祈願する雨乞い神事（水源祭り）が行われます。また、高津川を舞台にした「水郷祭」では、豊漁・安全を祈願する神事「ホー

ランエー」が行われます。あわせて花火大会も開催され夏の風物詩となっています。

高津川と地域を発信する

高津川では、川と地域の魅力を伝える取り組みも活発です。流域3市町は官民の協議会を設立し、首都圏の都市との交流事業を展開しています。このほか高津川流域に生きる人々の日常を描いた映画「高津川」が公開され（※1）、評判を呼んでいます。新型コロナウイルスの影響下にあっても、高津川の様々な恵みを紹介するオンラインツアーも開催されました。

これからも高津川と地域の暮らしに注目です。
（※1 2019年11月29日中国地方で先行上映。20年4月より全国公開予定であったが延期となっている。）



雨乞い神事（水源まつり）



高津川のアユ

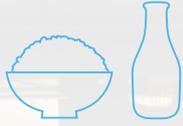
写真提供：石見観光振興協議会事務局



水郷祭（ホーランエー）

写真提供：石見観光振興協議会事務局

Made in "Clear Water"



「清流」から生まれた
名産品

[四国地方]

ヨ シ ノ ガ ワ

吉野川

吉野川水系



スジアオノリ漁

吉野川の食の恵み・スジアオノリ

生産量日本一

徳島県吉野川の河口部において、11月下旬から1月にかけて収穫されるスジアオノリは日本一の生産量を誇っています。良質な漁場に恵まれた吉野川でとれるスジアオノリは品質も良く、芳しい磯の香が特徴です。「青のり」としてお好み焼き、焼きそば、餅、ポテトチップスなど幅広い用途で利用されています。

吉野川の冬の風物詩

天然のスジアオノリは、全国に分布していますが、特に西日本の大河の河口付近の淡水と海水が混じる汽水域に生育していることが多いです。吉野川では河口から約8km上流まで生息しています。

養殖は、ノリ網と呼ばれる網にスジアオノリの胞子を付着させ、川の中で成長させます。吉野川河口で見られるスジアオノリの養殖風景は、吉野川の冬の風物詩となってい

ます。

スジアオノリの収穫には天候や気象条件が大きく関係します。成長に適した温度は15～20℃ですが、近年の天候不順で吉野川の水温も上昇しており、収穫量が不安定になっています。この対策として、高水温にも耐えられる品種開発も研究されています。

吉野川がもたらす自然の恵み

吉野川河口域では様々な魚も生息しています。吉野川で確認される魚種の半数以上が、河口域～下流域の汽水域で確認されています。また、アユやヨシノボリなどは吉野川の代表的な魚料理に使われています。

このように、吉野川は私たちに多くの食の恵みをもたらしてくれています。

ジンゾクの唐揚げ

(徳島県での淡水性ハゼ類の総称。吉野川支川の上流では主にカワヨシノボリがジンゾクと呼ばれています。)



スジアオノリの天然採苗場



成長したスジアオノリが付いた網



収穫し乾燥機にかけた後の様子
ふわっとして濃い緑色が美しい



販売されている
吉野川のスジアオノリ

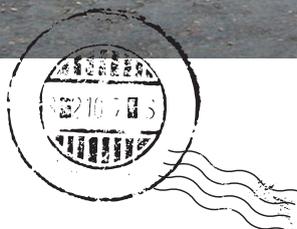


水質だより

[東北地方]
アカガワ

赤川

赤川水系



歴史ある赤川

赤川は山形県酒田市、鶴岡市など庄内地方を流れる河川です。水源のひとつに霊峰月山があり、古くから山岳信仰が有名です。赤川の流れる、米どころ「庄内」を長年支え、庄内地域の歴史と文化を築く重要な役割を果たしてきました。

その一つ「黒川能」は、500年以上にわたり、農民の手で受け継がれてきた伝統芸能です。毎年7月には「水焔の能」として赤川河川敷の特設水上野外ステージで、かがり火の中、幻想的に上演されます。



水焔の能（櫛引総合運動公園）

水質改善の取り組み

赤川の支川である「内川」は、かつては非かんがい期に水量が減り水質が悪化する年もありました。

このため、関係機関で調査・検討を重ね、既存の農業施設を活用して、赤川の河川水を最大 4.5m³/s 導水し、河川浄化を実施しています。



内川舟下りの様子



植生調査

市民の手で水環境保全と地域活性化に取り組む

導水による水質改善とともに、地域の方々による水環境保全活動も行われています。

このうち「鶴岡舟番所」は、内川流域の環境保全および地域活性化を図るために設立されました。和船を管理・運営し、歴史・文化的な資源の発掘と地域のまちづくりにつながる取組みを行っています。

内川舟下りや生き物調査では、子どもたちが身近な自然にふれて、川や自然環境の大切さを学ぶ機会となっています。

また、約 300 年前から行われていると文献にある「内川の藻刈り作業」も行われています。

夏場になると毎年、川底に藻が茂り、ごみなどがたまって景観を損ねることから、市の委託を受け実施しています。



内川での藻刈りの様子

ベルトを締め、体をフィットさせることで脱げにくくなる。

水難事故防止

ライフジャケット・オン!



たるまキャラの「山田ま」ちゃんが、ライフジャケットを着て「川田るま」に変身!



ライフジャケット・オン・スタイル

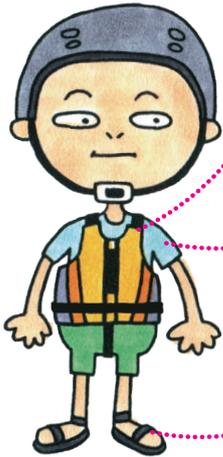
川は楽しい場所ですがリスクもあります。川に入らなくても川岸で足を滑らせて転落することもあります。川での水難事故のほとんどはライフジャケットさえ着ていれば防げた可能性があります。

川で子どもを事故に遭わせないために、そして自分も事故に遭わないように、子どもも大人もライフジャケットを着用することが必要です。

水面でも呼吸ができるようにする。

ライフジャケット

股下ベルトがある(子ども用)



体温を奪われないようにする。

乾きやすい服装(水着など)



水抜き穴がある

足を守る。脱げないようにする。

運動靴など



大切な頭を守る。
ヘルメット(あれば)

川の防災情報

提供
国土交通省



左の画面は、東京近郊のレーダー雨量画面です。国土交通省では川の防災情報を携帯電話向けに情報提供しています。

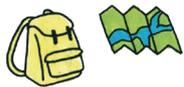


川のリアルタイムな情報をチェック!

川に着いたらレーダー雨量や水位を確認しよう!

1 川に行く前にチェック!

- 必ず天気や川の情報をチェックしよう。急な雨で、川が増水することもあるぞ!
- バーベキューやキャンプなどでも川に近づく場合はライフジャケットを用意しよう!(大人も子どもも)



2 川に着いたら安全も確認!

- 川に関する看板があれば確認しよう。
- 大人も子どももライフジャケットを着用し、子どもから目をはなさないように。(堰付近は川遊びにはキケン・近づかない!)
- 川のリアルタイムな情報を確認し、上流の状況について把握しよう。

携帯電話で上流の状況が簡単に確認できるよ!



3 表面は穏やかでも水中は注意!

- 川には流れがあり、常に変化しているぞ!
- 一見穏やかに見えても、急に深くなる所や、滑りやすい所があるぞ!
- 川の事故の約90%は、穏やかな流れや浅瀬で発生しているぞ!



浅瀬に見えても...中は激流!



穏やかな流れの中は、渦を巻いていることも!

川底は滑り易かったり石につまづいて転びやすい

穏やかな流れに見えても...急に深くなる!滑りやすい!



だからライフジャケットが必要なんだぞ!



4 こんな場所は急な増水に注意!

- 河原は、増水の際は川底になるぞ。特に中州にいると、増水したら取り残されるぞ!



平常水位

増水時

川原に草が生えていない所は、増水時に水が流れていることの「証」

5 すぐに避難!

- 増水の前ぶれや、警報が鳴ったら直ちに避難しよう!すぐに水位が上がってくるぞ!
- パトロールの人たちや警察・消防、河川管理者の注意には必ず従おう。

避難のつなげは事故に!



増水の前ぶれはこんな時!

- 山鳴り(山全体がうなるような音)がする。
- 水かさが増え、濁ったり、流木、落ち葉が流れてくる。
- 雨が降っているのに、水かさが減っている。
- 腐った土・火薬のようなにおいがする。



※もし誰かが流されたら、浮くもの等を投げよう(子どもは大人を呼ぼう!)。救助する大人が事故に合わないよう、大人もライフジャケットを!



ミズベリング・プロジェクトとは

かつての賑いを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。ミズベリングは「水辺+ RING (輪)」、「水辺+ R (リノベーション) + ING (進行形)」の造語。
水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑いを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こしていきます。

水辺のアクションがもっと増えれば、みんなのまちはもっともっと輝くはずだ。

なにやら、全国の水辺が、ゆるゆると元気になってきた。カフェやテラスができたり、巨大アヒルが浮かんでいた。河川を管理する規制の緩和で、水辺のポテンシャルが一気に加速してきたみたい。

すでに元気な水辺の都市もあるけれど、まだまだ水辺をとりいれてワクワクできる環境づくり、まちづくりはできるはず。

そこでミズベリング・プロジェクト、開始。
ミズベリング (MIZBERING) とは「水辺+リング (輪)」の造語であると同時に常に現在進行形 "ING" の気持ちで、水辺とまちが一体になった美しい景観を未来へ創造しつづけるソーシャル・アクションワード。

みんなのアイデアとアクションが集まれば、日本の水辺は、きっと世界がうらやむ楽しくて素敵なまちになるはずだ。

ミズベリング・プロジェクト事務局
mizbering.jp

ミズベリングの先進事例に学べ

1

「水都大阪」

「水都大阪」という、「水の都」としての大阪を復活させるプロジェクトをご存じだろうか？ 2011年から2020年までの長期プロジェクトで、「水都大阪 水と光のまちづくり構想」を掲げ、関西全体を元気にする「大阪の都市力の向上」を目標にしている。構想策定から10年間、水と光のまちづくりの取組みを推進するにあたり、市民・地域・NPO・行政等との連携をさらに強化。オール大阪で水辺の利用促進に励んでいる。



©千鳥土地株式会社

2

「水の都ひろしま」

広島市はまちの中心部を6本の川が流れている「水の都」。その恵まれた水辺を都市づくりに活かすべく、戦後間もない頃から水辺を緑地として整備してきた。今では延長25kmもの緑豊かな河岸緑地となり、美しい水辺が形成されている。水辺をもっと市民に使ってもらうため、市民と国・県・市の協働で「水の都ひろしま」構想(2003年)を策定。「水辺のオープンカフェ」や「水辺のコンサート」を開催、水辺での市民活動の促進、水上交通の活性化の推進などを行い、河川空間における市民や民間事業者の多様な活用が進んでいる。



水辺のアクションをみんなで起こせば、日本のまちはもっともっと輝くはずだ。

ミズベリング、5つのアクション

1 つなごう

「水辺の未来」を考える人がつなげれば、大きなムーブメントが始まるはずだ。

2 かたろう

「水辺の可能性」をみんなで探れば、思いも寄らないアイデアが浮かぶはずだ。

3 ためそう

「水辺でのチャレンジ」が増えていけば、世の中はもっと水辺に注目するはずだ。

4 つくろう

「水辺を通じたまちづくり」が進めば、日本のまちは世界がうらやむまちになるはずだ。

5 育てよう

「水辺での暮らし」をみんなで育てていけば、人生はもっと豊かになるはずだ。